

令和5年度 学校評価自己評価表 【中間】（9月）													
【学校教育目標】 ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる児童の育成 ―元気 本気で 最後まで―													
三次市立作木小学校													
ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる児童の育成 ― 元気 本気で 最後まで ―	中期 経営目標	短期 経営目標	目標実現の ための方策	評価指標	目標 値（％）	達成 値（％）	達成度 （％）	評価	自己評価	関係者 評価	ご意見	改善策	
	確かな学力 の定着	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	・複式指導の充実 ・算数科の授業づくり ・ICT 活用	・三次市学力到達度検査（算数の活用）において全国平均を上回る児童の割合	70					今年度、複式学級が2学級となり、来年度以降は全学年複式学級となる見通しである。児童が自分たちの力で学習を進める方法を身に付けることが土台となるため、6月には、複式指導の研修を教職員全員で行い、意識統一を図った。2学期以降も、算数科を中心とした各学級の授業提案を通して、複式指導や積極的なI C Tの活用について研修を行う予定である。			・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、調査問題のねらいとする資質・能力を身に付けさせるための問題作りと授業展開を考え、授業実践することを通して、指導方法の改善を図る。
		基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・読書活動の充実 ・常学習の実施（漢字・読解・計算の力の定着）	・単元末テスト（国語・算数）80点以上の児童の割合	70	44	62	2		80点以上の児童 国語：43% 算数：46% 特に算数の思考が低く、前年度までの知識を身に付け、それを使って思考することに至っていない。また、低得点の児童は、国・算と共通しており、漢字や読解などの力をつけていく取り組みを継続する。（→帯タイムでの計算や読解の繰り返し学習で定着へ）	A	・平均点で評価できないか。80点以上とれなかった児童はどうするのか、というところが重要になるのではないか。 ・複式学級で指導の難しい点も多いと思いますが、学ぶことでの楽しさや達成感につながればよいと思います。 ・とても厳しい実態ですね。毎時間の授業のねらいが達成できるよう、わかる授業づくりと個の実態に応じた指導の工夫をこれからもよりしくお願いします。 ・点数目標を70点以上にして、目標値を80％が妥当では？読書目標の達成値をもう少し上げてください。	・読解問題の取り組みせ方や答え合わせの方法など、常清タイムでαドリルを効果的に活用する方法を再度検討する。 ・算数では、各学年のドリルタイムの内容を再度確認し、前学年の内容も含めた既習事項で、繰り返し練習で定着を図ることができるよう、計画や方法を立てて実行できるようにする。
	豊かで健やかな心身の育成	自己肯定感の向上	・特別活動の充実 ・教育相談の実施 ・日常的な評価の工夫	・児童アンケート、i-Check における「自己肯定感」「思いを伝える」「お互いを認め合う」項目の肯定的回答	80	82	102	5		i-Check における肯定的回答は 82%であった。小・中合同遠足や小・中合同運動会など児童が協力しながら、目標に向かって最後までやり抜く場面があった。今後は、意図的に児童のよさやがんばりなどを評価する機会を設けていく。	A	・様々な場で、仲間づくりが進められている成果だと思います。子どもたちが充実した学校生活を送っていることがわかります。 ・この3項目はとても大切なことです。82.8%の達成値は素晴らしい。	・小・中合同運動会では、目標に向かって全校で協力しながら、やりきることができた。 ・今後は、意図的に児童のよさやがんばりなどを評価する「あいさつ名人」など取組の機会を設けていく。
		基礎体力の向上	・体育科授業の改善 ・外遊びの奨励 ・業間体育の実施	・新体力テスト結果のA B率	60	58	96	4		AB率は58%であった。課題が大きかったのは、握力、20mシャトルラン、50m走であった。2学期の体力向上の取り組みとして、業間体育の中に、課題のある運動能力の向上を図る運動を取り入れる。マラソン大会等を企画して、目標をもちながら体力の向上を図れるような場を設定していく。	A	・達成度は高いですが、目標値が低い。地域とともにスポーツイベントを開いたり、陸上選手などと呼んだりしてスポーツの楽しさが伝わるとよい。 ・子どもたちが意欲をもって体力づくりに取り組めるように工夫しておられると思います。 ・基礎体力の向上も必要ではありますが、児童たちが健康ならそれで良いと思います。	・業間体育の中に、握力、20mシャトルラン、50mを向上させる運動を取り入れ体力の向上を図る。 ・マラソン大会を企画し、持久力の向上を図る。マラソン大会の際には、マラソンカードを配布して、意欲的に取り組めるようにしていく。
			・生活リズムの改善（小中連携・家庭啓発）	・就寝時刻の目安を守っている児童の割合 ・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合	70	62	88	4		就寝時刻を守っている児童は 73%。夏休み明けは生活習慣が乱れることから早寝について継続して指導していく。メディアに関する家庭のルールは 52.2%。啓発資料を作成し、PTA 全体会で周知した。引き続き、児童へ指導するとともに保護者へ向けても情報発信していく。	A	・生活リズムの改善については、保護者の協力が重要ですね。啓発資料の作成や子どもたちの指導など、工夫しておられると思います。 ・就寝時刻を守っている割合が73%なのは、まずまずだと思います。	・早寝についてスタディウィークカードを活用し、実態把握に努めるとともに児童への保健指導や掲示物を作成し、児童に指導していく。 ・保護者向けの啓発資料の作成や話をさせていただく場を設け、積極的に情報を発信していく。
	愛され信頼される地域とともにある学校	積極的な情報発信	・学校・学級・保健便り等の計画的な発行 ・HP更新	・保護者の学校評価アンケートにおける学校満足度に関する項目の肯定的評価の割合	85	77	91	4		昨年度、1学期末の評価は「85%」に対し、8ポイント下がっている。保護者アンケートの各項目の評価も、昨年度と比較して上回っている項目がない。学校教育活動全般に対する満足度が下がっている。（特に、挨拶と学習理解度）	A	・目標値は妥当と思うが、達成値が低いと思う。達成度が高いので、必然的に達成度は高くなるが、5人に1人以上の保護者が学校に満足していないのはいかがなものか。 ・家庭、地域との連携が大切だと思います。 ・保護者アンケートの自由記述を読んで感じたのですが、具体的な内容から子どもの姿が伝わるような通信を望んでおられるのでは・・・？全体的なことや連絡事項は学校だよりに載せておられますから。 ・「学校での子ども様子をもう少し載せてほしい」という保護者の声は大切にすべきだと思います。	・保護者アンケートの全体評価が低いので、課題であるポイントを整理して、取組を具体化する。 ・特に、学力向上については、授業研究だけではなく、日常的な授業改善を目標に、授業力向上を目指す。 ・通信については、子どもの姿や担任の思いが伝わる内容を意識的に載せていく。
		作木ふるさと学習の充実	・オリジナルカリキュラムの評価改善	・保護者の学校評価アンケートで「作木のよさを知り大切に思う」児童の割合	90	89	99	4		1学期には、1・2年生が合同で地域を探検し、「常清滝」を訪れた。また、JAの方と協力して野菜作りにも取り組んだ。3・4年生では「作木の野鳥（ブッポウソウ）」の観察や、講師を招いて聞き取り等を実施した。2学期には、5・6年生も地域について学ぶ予定にしている。	A	・作木ふるさと学習がさらに発展・充実するように、できることは力になりたいと思っています。 ・目標値、達成値、達成度どれもいい数字なのになぜ評価は4？	・今後も、地域の協力を得ながら継続して取組を進め、持続可能で有意義な活動を整理する。
子供と向き合う時間の確保		・業務の精選と効率化 ・一斉退校日の設定 ・職員の意識改革	・「子供と向き合う時間を確保している」「自分は業務改善を進めることができた」と回答する職員の割合	80	80	100	5		昨年度と比較し、時間の確保や業務改善の重要性に対する意識は向上している。また、一斉退校日を含めた退庁時刻への取組も定着し、時間外在校時間も減少している。一人一人の子どもたちに向き合う時間の確保を目標に継続して取り組んでいく。	A	・先生方が意識を高くもって取り組んでおられるのだと思います。このことが子どもたちの学力向上につながることを期待します。 ・教員は激務といわれている時代に先生方はよく頑張っておられると思います。	・教職員のさらなる意識向上を目指し、子どもと向き合う時間の確保を最優先に、取組を進めていく。	
5 100％以上 3 60％～80％未満					目標を十分達成している。 目標をやや下回っている。			4 80％～100％未満 2 40％～60％未満	目標を概ね達成している。 目標を下回っている。 1 40％未満				
										A 自己評価は適正 B 自己評価は適正でない C 判断できない			